



捕虜たちの赤かぶらマップ一覽

日露戦争中(1904年～1905年)、姫路市内にロシア兵捕虜収容所が設けられ、播磨国総社や姫路船場別院本徳寺(船場御坊)など神社仏閣でも捕虜が生活をしました。捕虜生活は、約1年半。その間、捕虜たちは許可をもらえば割と自由に買い物や散歩、運動を楽しむことができ、市民との交流も行われました。市内に残る”縁の地”は、現在も観光や信仰、市民の憩いの場として親しまれています。今回、ロシア兵捕虜たちの”縁の地”や当時軍都であった姫路の町をマップで表現してみました。製作にあたり調査してみると、これまでに姫路での捕虜収容所は6ヵ所確認されていましたが、当時の新聞、写真などから新たに5ヵ所の寺院が収容所、事務所、病室としての使用が確認されました。

また、姫路市史に掲載されている寺院の写真が別の寺院であったことも判明いたしました。姫路市史を書き換える大きな発見です。

さらに、ポーランドで元ロシア兵捕虜の娘や孫の生存が確認でき交流が始まりました。捕虜たちと市民が残したエピソードが、まちづくりに生かされることになろうとは、当時の人たちは思いもよらなかったことでしょう。今回製作した「捕虜たちの赤かぶらマップ」を通して、異国から姫路にもたらされた小さな歴史物語、”縁の地”へのご案内いたします。尚、当マップは、未完成です。今後も、当時の歴史を掘り下げ、新しい事実を書き加えてまいります。



北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター所蔵

縁1

姫路第三十九連隊捕虜収容所
収容所名：車門本所
1904年8月1日開設
9月19日ごろには収容人数は、
897人に達していた
白鷺橋(埋門)の北110mに
位置した車門近くの城郭内に
あった



北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター所蔵

縁2

霊亀山亀山本徳寺
(亀山御坊)
浄土真宗本願寺派の別格別院
1905年1月開設
収容所名：亀山本徳寺支所
396名収容
寺の境内を自由に散歩する姿
〒670-0973
兵庫県姫路市亀山324
TEL 079-235-0242
FAX 079-235-2416



北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター所蔵

縁3

真宗大谷派姫路船場別院本徳寺
(船場御坊)
浄土真宗大谷派の別院
山号「轉亀山」(てんきざん)
1905年1月開設
収容所名：船場本徳寺支所
500名収容
捕虜同士で散髪する姿がある
〒670-0044
兵庫県姫路市地内町1-1
TEL 079-292-0580



北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター所蔵

縁4

瑞松山 景福寺
曹洞宗の寺院
1905年1月開設
収容所名：景福地支所
243名収容
捕虜が楽器を演奏する行進姿
〒670-0027
兵庫県姫路市景福寺前7-1
TEL 079-292-4807
FAX 079-298-0178

ロシア兵捕虜が育てた根野菜

望郷の思い。姫路に持ち込まれた「ロシアの”かぶら”」から始まる物語

玄峰山に至る



3. 姫路捕虜収容所に2,184名を収容

1904年7月5日、陸軍省は、姫路の第十師団に捕虜収容の準備命令を出す。開設期間は、同年（明治37）年8月1日～1905（明治38）年12月28日まで。当初、姫路城南側の歩兵第三十九連隊用地の一面を柵で囲い開設した。収容所の増設にあたり、亀山本徳寺が受け入れ、船場本徳寺、景福寺も同意した。新施設も満杯となり、城の東南側の総社と坂田町の妙行寺、善導寺、心光寺、正法寺、願入寺（事務所）、妙円寺（病室）を使用した。本部を置いた連隊内施設を「車門本所」と呼び、その他を「亀山支所」「船場支所」「景福支所」「総社支所」「坂田町支所」と名付けた。姫路の捕虜収容所は、松山、丸亀に続く全国3番目。

4. 捕虜たちとくらしと市民との交流

捕虜たちは割りときちんと自由に行動をした。許可を取れば、二階町や綿町で買い物に出かけたり、テニスをしたり、芝居などの観劇もした。字が読めないものも多くあり、識字教育が行われ捕虜収容地内では図書館のようなものも設置されていた。また、自炊も農作業も行った。市民との交流は、小学校の女児などが遊戯を披露した。さらに、皮革製造のロシア式技術をポーランド人捕虜ミハイル・ムラフスキが指導した。

三階町付近で買い物をする捕虜たち



縁17

大日河原
露人運動場・ビーツ栽培の地

青龍・市川

縁18

ミハイル・ムラフスキの住居跡

白虎・旧山陽道

国道2号線

四神相応とは、地理的景観が四神の存在にふさわしいすぐれた所。東に流水（青龍）、西に大道（白虎）



北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター所蔵

縁5

射楯兵主神社（総社）
（いたてひょうずじんじゃ）
播磨の国の総社
1905年4月開設
収容所名：総社支所
収容数：554名
境内を自由に散歩、城が見える
〒670-0015
兵庫県姫路市総社本町190
TEL 079-224-1111
FAX 079-224-1114



北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター所蔵

縁6

圓修山 妙行寺
法華宗の寺院
1905年4月開設
収容所名：坂田町支所第一号舎
収容数：坂田町6支所全体で
491名
今回新たに確認された収容所
〒670-0931
兵庫県姫路市坂田町153
TEL 079-222-3273
FAX 079-222-3277



北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター所蔵

縁7

悟真山 善導寺
浄土宗の寺院
1905年4月開設
収容所名：坂田町支所第二号舎
捕虜が楽器を演奏し聴入る
今回新たに確認された収容所
〒670-0933
兵庫県姫路市坂田町5
TEL 079-222-3827



北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター所蔵

縁8

實貞山 心光寺
浄土宗の寺院
1905年4月開設
収容所名：坂田町支所第三号舎
本堂前での撮影
山額、向拝虹梁
（こうはいこうりょう）及び
向って左の灯籠で確認
今回新たに確認された収容所
現在は下記に移転
〒670-0895
兵庫県姫路市北平野台町4-12
TEL 079-225-1598



北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター所蔵

縁9

徳住山慶運院 正法寺
浄土宗の寺院
1905年4月開設
収容所名：坂田町支所四号舎
本堂内での記念撮影
右上の寺紋で確認
〒670-0933
兵庫県姫路市平野町58
（当時は、坂田町）
TEL 079-222-3298
FAX 079-223-1502



北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター所蔵

縁10

一乗山 願入寺
浄土宗の寺院
1905年4月開設
収容所名：坂田町支所第五号舎
太平洋戦争姫路空襲で焼失
坂田町支所の事務所として使用
今回新たに確認された収容所
現在は、誓光寺に移転
〒670-0001
兵庫県姫路市河間町30
TEL 079-223-8361

著書「捕虜たちの赤かぶら」

明治期播磨の農婦口伝・播州弁で叙情豊かに

5 著書「捕虜たちの赤かぶら」

著者の三木治子さん（1920年-1987年）は、姫路市豊富町重国の大庄屋に生まれました。幕末文久元年から太平洋戦争後まで生きた祖母こふみさんから聞いた当時の出来事を播州弁で叙情豊かに24のお話にまとめたものです。本のタイトルにもなった「捕虜たちの赤かぶら」にある「ロシアのかぶら」とは、ロシアの郷土料理「ボルシチ」に欠かせないビーツのことで、どうい経緯なのか捕虜がその種を持ち込んで、市川の河川敷で栽培しました。うまく収穫までいったのでしょうか、捕虜たちの望郷の思いへの同情にあふれた表現になっています。

ツとは！
れるほど、リン、ナトリウム、
、鉄、カリウムが豊富で、
イオン、ピオチン、そして
います。また体内に取り入れる
高血圧、整腸作用、便秘解消、
が認められています。



紙芝居：捕虜たちの赤かぶら



ロシア兵捕虜記念写真



JR山陽線

JR新幹線

青龍・市川

縁16

阿保河原
露人運動場

復活へ栽培「姫路ビーツプロジェクト」

歴史の小さな物語が、まちづくりに生かされる！

7. 姫路ビーツプロジェクト

日露戦争中、姫路にビーツがロシア兵捕虜の手により伝来しました。そのいきさつや捕虜たちと市民との交流が、著書「捕虜たちの赤かぶら」に、生き生きと描かれています。おはなしの最後は「捕虜たちの蒔いた、かぶの花は三・四年ちよろちよろ咲いたが、もう消えてしもうて咲かん」と、赤かぶが途絶えたともとれる内容で終わっています。この史実口伝は「まちづくり」のヒントに成り得ないか、との思いから、これを機に一度は絶えたかもしれないビーツの花を咲かせ、姫路においてビーツが地域野菜として根付き、ビーツのまち、ビーツのたべられるまちさらにはロシアの方々との民間での国際交流の実を育てていければと考え「姫路ビーツプロジェクト」を立ち上げました。



青龍・市川

海に至る

南に水辺（朱雀）、北に丘陵（玄武）が備わる土地。姫路の地勢がこれにあたることを言います。



北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター所蔵

縁11

大林山 妙圓寺
法華宗の寺院
1905年4月開設
収容所名：坂田町支所第六号舎
病室として使用
今回新たに確認された収容所
〒670-0933
兵庫県姫路市平野町3
TEL 079-222-8594



北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター所蔵

縁12

栗林山埋葬地
姫路でなくなったロシア兵の
葬式。西から名古屋山・小鞠山・
御前山の三つの丘陵全体を
さして栗林山といい、陸軍
埋葬地並びに姫路監獄埋葬地
を合わせ栗林山埋葬地という
名古屋山霊苑管理事務所
〒670-0051
兵庫県姫路市名古屋山町14番1号
TEL 079-297-5030



北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター所蔵

縁13

くらし

薬師山
『播磨国風土記』に
「十四丘伝説」として登場する
標高70mにも満たない丘。
昔から姫路の行楽地の一つ。
桜の時期など多くの市民で
にぎわった。
薬師山から帰る捕虜たちの列
兵庫県姫路市山畑新田



北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター所蔵

縁1

くらし

姫路捕虜収容所内
捕虜学堂（車門本所内）
捕虜の三分の一が文盲者
で識字教育が行われた。
自署さえままならなかった
捕虜が読み書きを学び、
故国へ手紙を出したところ
「お前が文字を書けるよう
になったのに村のみんなが
驚き、感心している」
との返事が来た



北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター所蔵

縁16

くらし

露天運動場（阿保河原）
写真は、市川橋の西詰あたり
奥に見えるのが市川橋
他にも、大日の河原がある
各支所ごとに野外運動を行
った
当時の新聞では、月一回程度
の割合で外出の新聞記事が
出ている



北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター所蔵

縁3

縁15

くらし

船場支所酒保
酒保（しゅほ）とは、軍隊の
駐屯地（兵営）施設・艦船内
等に設けられ、主に軍人軍属
たる下士官兵や同相当官を
対象に主に日用品、嗜好品を
安価で提供していた売店
この場合、捕虜を対象の酒保
他の支所にも設置。中村組合
資会社が一切を取り仕切った。

日露戦争、姫路に捕虜たちがやってきた!

四神相応の地・姫路はじまって以来、その数2,184人。

玄武

日本列島に、上陸したロシア兵捕虜約七万二千人
 全国二十九カ所の収容所にあふれた!

姫路ビーツプロジェクト

捕虜たちの赤がぶるびる

Himeji Beets Project



1. 日露戦争
 1904年(明治37年)2月8日 - 1905年(明治38年)9月5日
 大日本帝国とロシア帝国との間で朝鮮半島、ロシア主権下の
 満洲南部と日本海を主戦場として発生した戦争。
 捕虜の取り扱いに関する国際条約が定められて初めての国際戦
 争。両国の捕虜に対する対応が世界に注目された。アメリカ
 合衆国の仲介で1905年9月5日にポーツマス条約により講和。

**2. 日本列島に上陸した捕虜約72,000人
 全国29カ所の収容所にあふれた!**
 捕虜総数、71,947名。
 日本全国29カ所の陸軍の常駐地に収容した。
 明治維新後、これほどの数の外国人が日本列島に
 上陸したことはない。"第二の開国"と呼ばれる。
 最初の捕虜収容所は、愛媛県松山市に設置。



縁17 交流

捕虜慰謝のため開催された
小学校女児の遊戯
右側、真ん中に袴姿の女児
の列
左側の白い集団が捕虜たち

場所は大日河原
「ロシヤのかぶら」は、
この河原で育てられた

北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター所蔵



縁14 交流

1913年（大正2年）に発行された
姫路名所案内（橋本政次）に
「山陽座 坂本町に在り、明治
36年（1903）7月1日に認可さる、
姫路第一の大劇場・・・」とある

写真は、1905年4月11日
市川團蔵一座の歌舞伎を観劇す
る捕虜たち（最近まであった
山陽座とは異館）

北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター所蔵



縁4 交流

瑞松山 景福寺
当寺に收容されていた
ポーランド人の元ロシア兵捕虜
フランチシェク・ビンキェヴィチ氏
の遺族により提供された写真(3枚)
左、日本兵、日本人の子供数人と共
に撮影されている

右の手紙は、同氏が家族に宛てた
手紙。Himejiの文字が読み取れる。
右の三人の写真の中央が、フランチ
シェク氏

113年の時を経て、元捕虜の家族と
の友好の交流が始まる

ビンケビッチ家所蔵



縁4 交流

ビンケビッチ家所蔵

ビンケビッチ家所蔵



縁4 交流

ビンケビッチ家提供

左が、ポーランド人の元ロシア兵捕虜フランチシェク・ビンキェヴィチ氏の
娘テオドジア ベルゲー氏1922年4月ビエチビエンツキ村生れ。右が、直系の孫
ミエチェソワフ・ビンケビッチ氏1950年1月ワルシャワ生れ

捕虜たちの赤かぶらマップ

このマップは兵庫県中小企業団体中央会の連携組織活路開拓調査・実現化事業補助金により製作いたしました。



田中達郎です。姫路ビーツプロジェクトが始動して
3年目を迎えます。そして、私も今年で91歳。
私が生まれる20数年前の日露戦争で、捕虜たちと
姫路市民の邂逅によって生まれた「捕虜たちの赤か
ぶら」の物語を、姫路のまちづくりに活かしていく
活動をこれからも続けて参ります。

発行日：2019年2月11日初版
発行人：田中達郎 監修：寺前高明
住 所：〒670-0012兵庫県姫路市本町68番地
tel&fax：079-281-7466 E-mail：npo@himeji68.jp
URL：http://himeji68.jp/himejibeets/

発行人：田中達郎





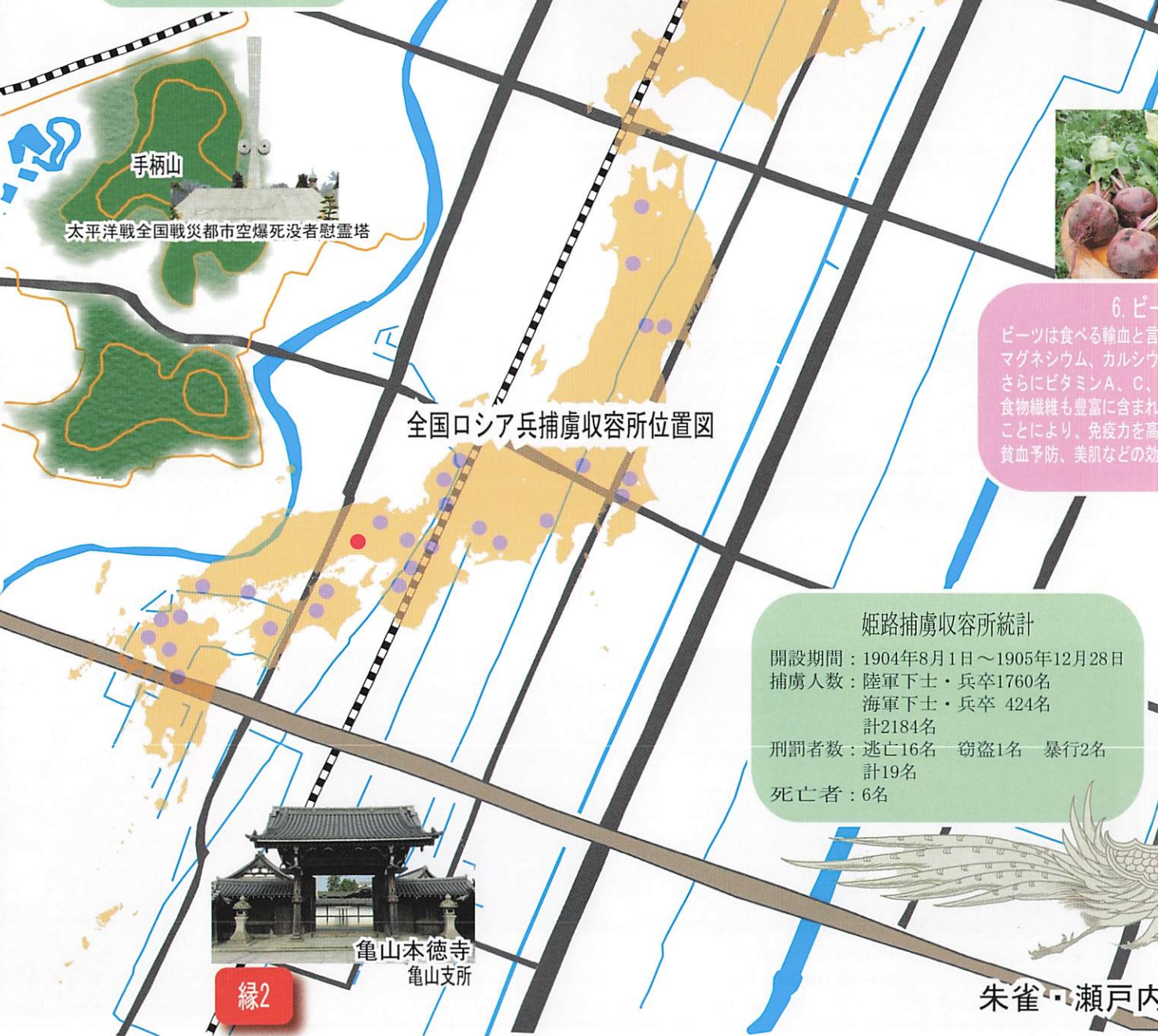
マップの 説明

-  ロシア兵捕虜の縁の場所
-  姫路城跡
-  帝国日本陸軍関連施設跡
-  丘陵、山、原生林
-  河川敷
-  河川、池、用水路
-  道路
-  姫路バイパス
-  みゆき通り
-  旧山陽道
-  生野街道（野里街道）
-  解説枠
-  統計・解説枠
-  線路

このマップは、兵庫県中小企業団体中央会の連携組織活路開拓調査・実現化事業補助金により製作しました。

民衆の異文化体験と交流の姿。ゆかりの場所を紹介。

※捕虜と俘虜について
「捕虜（ほりよ）」と「俘虜（ふりよ）」とは意味において全く同じ。第二次世界大戦まで日本陸軍では俘虜と呼んでいました。当マップでは、捕虜として表記します。



6. ビーツは食べる輸血と言われ、マグネシウム、カルシウム、さらにビタミンA、C、食物繊維も豊富に含まれることにより、免疫力を高め、貧血予防、美肌などの効果がある。